

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677500094
法人名	医療法人 おさしお会
事業所名	グループホーム きらら
訪問調査日	平成 20 年 7 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 9 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4677500094
法人名	医療法人 おさしお会
事業所名	グループホーム きらら
所在地	鹿屋市吾平町3766番地1 (電話) 0994-58-5858

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成20年7月29日
評価確定日	平成20年9月9日

【情報提供票よ!】(平成20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	15 人
非常勤	0 人
常勤換算	15 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 ~ 24,000円	その他の経費(月額)	6,000円(管理費)	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (八店一時立占 お)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780円	

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.1 歳	最低	75 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関	長崎内科 小浜歯科 平瀬病院 井上病院
--------	---------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム「きらら」の玄関周囲は沢山花が植えられて玄関のドアは開かれ、訪ねやすい雰囲気である。朝の掃除が終了するとリビングで「かごの鳥」の歌が始まり、入居者の方は急に大声が出て明るい表情に変わり、楽しい1日が始まる。事業所は入居者の担当職員を決め、担当者が介護計画の目標を意識しながら日々のきめ細かい状況を把握しており、家族へも自筆の便りで報告している。隣接の関連老人保健施設より、看護師が毎日巡回し健康管理もされ、管理者・職員は、常に入居者一人ひとりの動作、表情に注目して、その人らしく穏やかな生活が送られるようさりげなく支えており、安心して生活できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度の外部評価の改善点は3項目あり、市町村との連携、職員を育てる取り組み、重度化や終末期に向けた方針の取り組みであったが、いずれの項目についても真摯に受けとめ、改善に向け取り組みの努力がなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を各ユニットにコピーし、それぞれの職員に書き込みをしてもらい、管理者がまとめている。特に88~100の項目については職員一人ひとりに印をした理由についてのコメントを書いてもらい自分で考え意識してもらうなど自己評価の取り組みを活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は2カ月に1回、入居者・ご家族代表、ホーム管理者、計画作成担当者、法人の事務員、地域町内会々長、地域民生委員、市職員、包括支援センター職員と幅広い立場のメンバーの参加で開催されている。ホームの行事案内、行事計画、行事報告が主な課題であり、その他抱える問題点などの話し合いもなされているが、詳細な記録がなく、討議の進行状況が第三者に判りにくい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者は気軽にご家族からの意見、不満、苦情、相談が聞けることを望み、入居者のケア担当者を決め、担当者が家族に暮らしぶりや健康状態を手紙で報告し、相談しやすい関係を作っている。ご家族の意見の出しやすい場として、年2回家族会を設けたり、運営推進会議に参加してもらっている。意見や相談があった場合職員で話し合い、ご家族が納得されるよう対処されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームでは入居者の方が住みなれた地で安らぎのある生活を送っていただきたいと願い、地域文化祭に作品出展、地域夏祭り見学、小学校訪問で子供と食事や会話を楽しむなど地域行事に積極的に参加している。又ホームではきらら定食の会を開催し地域の方に参加してもらっている。小学生の訪問があったり地域との交流が活発に行われている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は開設当初の理念に、地域密着サービスへの移行に伴う見直しを行い、地域の中で安らぎのある暮らしの支援を盛り込み事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念について話をされ、毎朝のミーティング時に唱和し、トイレやホールに理念を掲げ全職員が理念を共有できるよう取り組み、日々の実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に作品出展や見学、夏祭りの見学、地域小学校への訪問をしている。又小学校の子供達の来訪、ホーム開催のきらら定食の会へ地域住民参加の呼びかけなど行い積極的に交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価・外部評価実施の意義を理解し、前年度外部評価の問題点も改善に向け取り組んでいる。自己評価も全職員で取組み作成している。特に管理者は職員が利用者本位の視点に立ってのケアの評価について、職員一人ひとりの考え方を把握している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回定期的に開催され、幅広い立場のメンバーが参加されて、ホームの活動状況の報告、行事案内、運営についての意見、助言など話し合わせられ運営向上に活かしている。		管理者からの話では推進会議の話し合いでメンバーの質問、意見、要望など話し合われているようであるが、現在の記録ではホーム側の報告、説明、交流会にとどまる会議にしか見えてこない。第三者にも会議の状況が見えるようメンバーからの率直な質問、意見、要望など話し合いの記録の工夫をして欲しい。

鹿児島県 グループホームきらら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は月に1～2回市の窓口を訪問しており、職員とは馴染みになっており、夏祭り参加の駐車場確保の相談をしたり、地域交流目的の事業所開催のきらら定食の会へ参加してもらうなど市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の担当職員により、毎月、月初め担当者の自筆の手紙で暮らしぶりや健康状態が報告されている。金銭管理は個別の出納帳が作成され、ご家族の来訪時に確認されている。職員の異動はホームの手紙で全員に知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は気軽に家族からの意見、不満、苦情、相談が聞けることを望み、入居者に担当職員を決めたり、意見箱の設置をするなど対策をしている。出された意見に対して職員と対処できる話し合いをし、内容を記録し、家族に報告している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はユニット間の異動もしていない。職員の働き易いように勤務希望を優先しながら勤務表の作成をしている。職員の新規採用には最終的に管理者も立ち会うなど異動を最小限に抑え利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。過去1年間に2ユニットで1名の異動に留まっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は全員参加を基本として毎月法人内の研修を行い、管理者は年間のホーム内研修計画を作成し毎月勉強会をしている。大隅地区グループホーム連絡協議会に、内容に応じて職員が交代で参加し、消防署の救命救急の受講も2～3名ずつ参加し、研修を受ける機会の確保をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会の勉強会に2か月に1回職員が交代で参加し、同系列のグループホームとは3か月に1回情報交換をし、他のグループホームにも訪問をするなどサービスの質の向上に向けて取り組みを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>母体の病院や施設からの入居が多くご家族の見学はあるが、本人がホームを訪れることは少ない。入居予定の人には職員が病院や施設を訪ねて顔見知りになるよう図っている。必要に応じて体験滞在やショートステイなどの利用により徐々に馴染んでもらえるような工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はホームの理念「あなたから学ばせていただく事や、教えていただく事を大切に受け止めながら、共に過ごさせてください」にそって、意識しながら、生活の中で喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>管理者・介護計画担当者は入居時は本人・ご家族から思いや意向について確認しているが、入居されてからは個別の担当者が中心となり日頃の生活の中で、本人の言葉や表情、行動からその思いを確認し把握している。確認困難な人も表情や行動をくみ取り本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>個別の担当者から本人ご家族の思いや意向、日頃の生活の中での情報を伝えてもらい、管理者や計画作成担当者が中心になり関係者を集め本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方を話し合いながらプランの作成をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別の担当者が毎月介護計画と、プラン実施表と見比べて評価が行われている。小さな変化については変化の表示を追加したり目標期間の変更をしている。大きな変化が生じた場合は本人、ご家族、必要な関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、医師による往診、定期的な外来受診又併設の老人保健施設より看護師が毎日巡回し点検、指導、アドバイス、治療がなされ病気の早期発見や入院回避をし生活の継続を保っている。本人ご家族の状況に応じ、通院、墓参り、買物支援なども行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の希望されるかかりつけ医を選定の上で適切な医療が受けられるよう支援されているが殆どの入居者は母体病院がかかりつけ医である。他科受診にも家族に連絡し、基本的には職員が付き添うが、家族同伴を必要とする時は家族にも同伴してもらう。受診の情報も連絡している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院の際「重度化対応体制に係る指針」の説明は行われている。家族会開催の折、新たに確認してもらい今後の希望を聞く形をとり、本人やご家族に一人ひとりの重度化に伴う意思を話し合いながら確認作業を進めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては入職契約時にも説明され、プライバシーの勉強会を年1回行い、個人情報に関する書類の管理、羞恥心に配慮した対応、適切な言葉かけの学習がなされている。支援中でも気がついたらその都度注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの生活の基本的な流れはあるが、決まり事を優先することなく、入居者のペースを大切に、朝寝をする人、病院へ出かけた人、長風呂が好き人、晩酌したい人などできるだけ本人の希望にそってその日を過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立担当者は好きなメニューを聞き要望を取り入れた献立を作成し、職員は入居者と共に、調理、盛り付け、配膳、食事、片付けを行い、食事が楽しみになるよう支援している。お弁当を持って外に出かけたり、外食の支援も行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は2日毎に決めているが、その日以外であっても入浴できなかった人、診療で入浴の必要のある人、本人希望に応じ柔軟に対応し、入浴の順番表を作るなど入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	来訪者の出迎えや話し相手、食事の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、洗濯ものたたみや居室の掃除など能力に応じた役割に力を活かしている。職員は入居者の一番の楽しみはご家族との面会、イキイキした変化があるのはゲームする時、歌を歌う時、家族の名前を発表する時、来客がある時、小学生と触れ合う時、おしゃべりする時と把握され、そのような提供場面の支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺の散歩は途中で椅子が設置されて、時々休みながら散歩できるため日常的に支援している。買い物や外来受診、理美容院など希望にそって外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝6時から夜の8時までは入口の鍵をかけないないケアがされている。職員は外に出かける傾向のある人には、注意しながら見守っており、出かけられたら転倒の無いよう一緒に付き添っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の老人保健施設と共に年2回消防署職員立会いの防災訓練をし、各ユニットに於いても毎月火災元を指定して火災訓練を行い、反省点を次の訓練に活かすようにしている。日誌にも毎日ガス、浴室給湯器の点検が記録され安全確保に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表により食事量が把握されている。水分量の記録は、注意の必要な人以外はしていないが、朝・昼・夕食・お茶タイム1日で1500cc確保する目安を立て、摂取の少ない人には好きな飲み物で補給している。摂取量で気づきがあれば栄養士や医師に相談し、指導を受け支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・食堂・リビングはワンフロアになっており天井が高く開放的であり、天窓からの採光、フローリングの床、壁のクロスは薄いピンク柄、フロアは籐の椅子・ソファが置かれ、季節感を取り入れた展示物、観葉植物、花を飾り、いずれも居心地よく過ごせる工夫がされた共用空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳、フローリング、トイレ付き、トイレ無しの部屋など多種である。ベット・タンスは備え付けで、その他の備品は本人やご家族と相談しながら、本人が大切にされていた馴染みの物(家族の写真、時計、テーブル、テレビ、世界地図、その他)を持ち込み本人が居心地よく過ごせるようにしている。		